

平成 25 年 2 月 17 日 (日) 施行

## 第 170 回 全経簿記能力検定試験 3 級 商業簿記 解説

## 第 1 問

1. 元入れ→資本金の増加。

(借) 現金 (資産) の増加 土地 (資産) の増加	(貸) 資本金の増加 (純資産) の増加
--------------------------------	----------------------

2. (借) 仕入 (費用) の発生 (貸) 買掛金 (負債) の増加

3. (借) 受取手形 (資産) の増加
- 
- 売掛金 (資産) の増加 (貸) 売上 (収益) の増加

4. 概算で渡している (実際にかかる交通費は未定のため) ので、仮払金 (資産) として処理する。

(借) 仮払金 (資産) の増加	(貸) 現金 (資産) の減少
------------------	-----------------

5. 当座預金勘定の残高は借方残 ¥130,000 なので、¥70,000 は当座借越 (負債) として処理する。

(借) 備品 (資産) の増加	(貸) 当座預金 (資産) の減少 当座借越 (負債) の増加
-----------------	------------------------------------

6. 取得原価 ¥2,300,000 の有価証券を ¥2,800,000 で売却したので、売却益 ¥500,000 (収益) が増加する。

(借) 当座預金 (資産) の増加	(貸) 有価証券 (資産) の減少 有価証券売却益 (収益) の発生
-------------------	---------------------------------------

7. 固定資産税は租税公課 (費用) で処理する。

(借) 租税公課 (費用) の発生	(貸) 現金 (資産) の減少
-------------------	-----------------

## 第 2 問

1. 売上原価と売上総利益

仕 入		損益計算書	
期首商品 350,000	売上原価 11,250,000	売上原価 11,250,000	純売上高 17,450,000
純仕入高 11,330,000		売上総利益 6,200,000	
期末商品 430,000			

売上原価 = 期首商品棚卸高 + 当期純仕入高 - 期末商品棚卸高 の関係より

$$\text{売上原価} = \text{¥}350,000 + \text{¥}11,330,000 - \text{¥}430,000 = \underline{\text{¥}11,250,000}$$

純売上高 - 売上原価 = 売上総利益 の関係より

$$\text{売上総利益} = \text{¥}17,450,000 - \text{¥}11,250,000 = \underline{\text{¥}6,200,000}$$

## 2. 期首の純資産と当期純利益

期首貸借対照表		損益計算書		期末貸借対照表		
資産 4,300,000	負債 2,500,000	費用	収益 17,450,000	資産 5,800,000	負債 3,700,000	
	期首純資産 <b>1,800,000</b>				期首純資産	期末純資産
		当期純利益 <b>300,000</b>		当期純利益 <b>300,000</b>	<b>2,100,000</b>	

**期首純資産＝期首資産－期首負債** の関係より

$$\text{期首純資産} = \text{¥}4,300,000 - \text{¥}2,500,000 = \underline{\text{¥}1,800,000}$$

**期末純資産＝期末資産－期末負債** の関係より

$$\text{期末純資産} = \text{¥}5,800,000 - \text{¥}3,700,000 = \text{¥}2,100,000$$

**当期純利益＝期末純資産－期首純資産** の関係より

$$\text{当期純利益} = \text{¥}2,100,000 - \text{¥}1,800,000 = \underline{\text{¥}300,000}$$

### 第3問

1月10日 売掛金の回収

(借) 現金	160,000	(貸) 売掛金	160,000
--------	---------	---------	---------

現金が増加 ⇒ **入金伝票**

1月16日 約束手形の振り出し

(借) 買掛金	300,000	(貸) 売掛金	300,000
---------	---------	---------	---------

現金取引ではないので**振替伝票**を使用する。

1月23日 商品の現金仕入

(借) 前払金	210,000	(貸) 現金	210,000
---------	---------	--------	---------

現金が減少 ⇒ **出金伝票**

### 第4問

1月8日 商品の仕入

前月繰越と単価が同じなので、仕入後の残高は(20個+100個)×@¥3,000=¥360,000として記入。

1月11日 商品の払出

110個払い出すので、残りは10個

1月21日 商品の仕入

仕入前残高(10個×@¥3,000)とは単価が違うので、合算して記入することができない。よって

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{仕入前残高} \quad 10 \text{ 個} \times @ \text{¥}3,000 = \text{¥}30,000 \\ \text{仕入分} \quad 100 \text{ 個} \times @ \text{¥}3,200 = \text{¥}32,000 \end{array} \right.$$

として併記する。

1月28日 商品の払出

先入先出法なので、払い出す90個中、先に仕入れた10個(@¥3,000)を全て払い出す。

残りの80個分を、後からの仕入分(@¥3,200)で払い出す。

## 第5問

### 決算整理事項

#### 1. 売上原価の計算

期首商品棚卸高は残高試算表より ¥220,000

(借) 仕 入	220,000	(貸) 繰越商品	220,000
繰越商品	380,000	仕 入	380,000

#### 2. 貸倒引当金の計上

売掛金の期末残高は ¥1,500,000

$$¥1,500,000 \times 1.2\% = ¥18,000$$

差額補充法で処理するので繰入額は ¥18,000 - ¥11,000 = ¥7,000

(借) 貸倒引当金繰入	7,000	(貸) 貸倒引当金	7,000
-------------	-------	-----------	-------

#### 3. 減価償却費の計算

備品の取得価額は ¥2,500,000、耐用年数 5 年、残存価額はゼロなので、年間の減価償却費は、

$$¥2,500,000 / 5 \text{年} = ¥500,000$$

直接法なので、備品から直接控除する。

(借) 減価償却費	500,000	(貸) 備 品	500,000
-----------	---------	---------	---------

#### 4. 現金過不足の処理

¥2,000 を雑損（費用）として処理する。

(借) 現金過不足	2,000	(貸) 雑 益	2,000
-----------	-------	---------	-------

#### 5. 引出金の処理

引出金の金額 ¥80,000 を資本金から控除する。

(借) 資 本 金	80,000	(貸) 引 出 金	80,000
-----------	--------	-----------	--------